



校訓 玉の心 和の心 学校教育目標 夢に向かって 明るくたくましく生き抜く力をもつ玉祖っ子

# たまのや

平成28年(2016年)臨時  
防府市立玉祖小学校

## 共生社会を目指して

校長 梶田 崇晴

9月に入り、子どもたちは、また学校生活が始まりました。学校というところは、「社会の縮図」と言われています。そこには、いろいろな考えをもった子どもたちが集まり、一日の多くの時間を友だちと過ごします。学校では、教科の学習だけに限らず、友だちとの関わり方、トラブルが起きた時の対処の仕方などを学びます。勉強を学ぶ場であると同時に、社会での在り方を学ぶ場でもあるのです。そんな中、今、インクルーシブ教育システムという考え方が始まっています。それは、障害がある人もそうでない人も、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会(共生社会)を目指そうというものです。私たちは人生の先輩として、子どもたちにそのような考えを伝えていく必要があります。そういう中、神奈川県で痛ましい事件が起きました。それを受けて、文部科学大臣から子どもたち、保護者の皆様、そして地域の方々に対してメッセージが発信されました(裏面)。ここに書かれていることを本気で考え、子どもたちが楽しく安心して学び、生活できるよう全力を注ぎたいと考えています。

## 地域の方々とのつながり

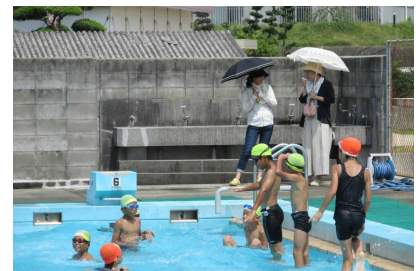
### ○ 子ども会活動 その1

玉祖地区では、子ども会活動が盛んに行われています。夏休みの間も、7月23日の玉祖校区子ども会キックベースボール大会が行われ、多くの子ども達が参加し、早朝から保護者の方々も多数応援に駆けつけて下さいました。また、玉祖校区の代表となった「日の本2・江良・居合連合」「七尾」は、8月7日向島運動公園で行われた市の大会に出場しました。惜しくも一回戦突破とはなりませんが、暑い中での子ども達の頑張りは素晴らしいものがありました。保護者の方々、地域の方々とのつながりを改めて感じました。応援、ありがとうございました。



### ○ 子ども会活動 その2

夏休みの間の地区のプール開放では、保護者の皆様に安全監視をしていただき、大変お世話になりました。今年は安全面での強化から「最低でも4人」を守っていただき、地区の役員さんを中心にいろいろと人数調整等、いろいろご心配をおかけいたしました。お陰様で、子ども達も楽しいプールの時間を過ごすことができました。これからも、子ども会の行事が予定されています。「地域の子どもは地域で育てる」、これからみんなで積極的に参加しましょう。



### ○ 夏休みの学力アップ教室

夏休み中8月25日(木)、26日(金)、29日(月)、30日(火)の4日4年生以上の希望者を対象として学力アップ教室が実施されました。子ども達は暑い中、一生懸命に問題に取り組んでいました。また、今年も多く地域の皆さまが苦手な子の個別指導や採点など指導に当たって下さいました。子ども達も地域の方々とのふれ、リラックスした雰囲気の中で実りある学習となったようです。ご協力いただいた地域の方々、本当にありがとうございました。



## 文部科学大臣メッセージ

平成28年8月2日

神奈川県相模原市の障害者福祉施設において、あまりにも痛ましい事件が起こりました。これは、決して許されない出来事であり、怒りを禁じえません。

被害にあわれた方々に対し、心からのご冥福とお見舞いを申し上げます。

特別支援学校には、約13万8000人の障害のある子供たちが在籍し、そのうち約8800人は、400箇所近い寄宿舎で生活し、学校に通っています。このため、今回の事件を受け、子供たちはもちろん、ご家族の中には非常に不安を感じておられる方もいることと思います。そのような気持ちに、ていねいにより添っていきたいと思います。

文部科学省では、7月27日に、特別支援学校をはじめとする全国の学校において、寄宿舎における夜間・休日の対応も含め、改めて安全管理体制の検証を行うよう各学校及び教育委員会に対しお願いしたところです。

学校関係者におかれは、この通知を踏まえ、警察等の関係機関と連携しつつ、安全管理の徹底を図っていただくとともに、保護者やPTAをはじめ地域の関係団体の方々におかれても、子供たちの安全確保について、地域ぐるみの協力をお願いいたします。

子供たちが楽しく安心して学び、生活する場であるはずの学校で、今回のような痛ましい事件が決して起きることのないよう、学校にお

いて子供たちの安全管理を徹底するとともに、子供たちが、障害のあるなにかかわらず、将来に希望を持っていきいきと暮らせる社会をつくるために、関係者が全力で取り組んでまいります。どうか安心して学校に通ってください。

また、障害のある子供と障害のない子供がお互いを正しく理解し、共に支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができよう、学習指導要領において交流及び共同学習を位置付けており、学校教育を通じて障害に対する理解が進むようこれからもしっかりと推進してまいります。

さらに、東京オリンピック・パラリンピック競技大会も契機として、特別支援学校の子供たちが夢や希望を持てる機会を充実したいと考えています。そのような取組の一環として、全国に1,114ある特別支援学校でスポーツ・文化・教育の全国的な祭典を開催する「Specialプロジェクト2020」を推進し、特別支援学校が2020年東京大会のレガシーとして、障害のある方と障害のない方が共に生きる地域の拠点となるよう取り組んでまいります。

文部科学省では、各教育委員会等と十分に連携しながら、地域社会と一体となってすべての子供たちの笑顔を作るような取組を進めてまいります。